

とちぎ ひと模様

「グローバル化、高度情報技術(IT)化、少子化。日本が直面している三つのキーワードを持ち合わせたサービスを提供できないか」。昨年、

ITの可能性に懸ける

「グローバル化、高度情報技術(IT)化、少子化。日本が直面している三つのキーワードを持ち合わせたサービスを提供できないか」。昨年、同僚と二人で外資系ソフトウェア企業を退職し、起業した。技術者が不足する日本企業の需要に対応しようと、日本語を話す中国人(玄関)サイトを開設した。上海に法人を設立し、現地で中国人技術者の採用活動も行っている。

「日本での技術者不足は既に深刻な状況。中国には日本語が話せる優秀なエンジニアがたくさんいるので、彼らのキャリアアップも支援したい」。また米国やフランスのソフトウェア企業と提携し、最先端のソフトウェアを日本企業向けに改良して提供している。さらに、地方出身である自らが東京での就職、転職、起業に苦労した経験に基づき、ビジネスの人脈づくりを支援するコミュニティサイトも近くオープンさせる。

外国籍の社員も多く、東京タワーにほど近いオフィスでは日本語、英語、中国語が飛び交う。現在、社員数は契約社員も含めて五十人。初年度の売り上げは実質半年で一億円を超え、本年度は四億円を見込む。

「働くことが、生きるためではなく日常の選択の一つになるような自由を手に入れたい。まあ、しばらくは仕事一筋で走り続けましょかね」。壬生町出身。二十八歳。

グローバルウェイ取締役

わたなべのぶあき
渡辺 信明さん



あっとTOKYO

ちっちゃな ミュージアム

日本サッカー協会(JFA)がある文京区本郷は今や、すっかりサッカーの町だ。サッカー通があり、日本代表チームを応援するのほりがはためく。JFAと同じ建物に2003年、この人気スポーツの魅力を紹介する施設として開設された。

1階玄関を入ると、ガッツポーズをするジーコ監督の等身大写真が置かれている。案内役は、サッカーに詳しい女性スタッフ。関連商品が飾られた展示棚の頭上では、子ども向け教室の映像などが流れている。人気を集めているの

W杯の熱伝える「聖地」

は、大型スクリーンに過去の試合の名場面を映し出す「ヴァーチャルスタジアム」。02年ワールドカップ(W杯)日韓大会でのブラジルとドイツによる決勝は、実際に観戦しているような臨場感で、来館者たちは「すごい」を連発していた。地下1階では、日本代表やJリーグの公式商品をそろえた店が盛況。地



日本サッカーミュージアム



下2階の記念館を今年、サッポロが、サッポロの「涙の柏卓」